

各種会議・研修会等開催概要(令和 8 年 4 月～5 月分)**○ 令和 8 年度障害者総合支援給付審査支払等事務担当者研修会を開催（オンデマンド配信・4/20～5/22）**

本研修会は、県及び市町村の障害者総合支援給付審査支払事務担当者を対象に、業務上必要な知識や市町村等支援システムの操作方法等を習得し、業務の円滑な推進を図ることを目的として開催したところ、37 名が受講した。

冒頭、本会から障害者総合支援給付審査支払等事務に関する業務内容や、市町村等支援システムの操作方法について説明した。

続いて、本年度新たに、青森県運営適正化委員会から同委員会における苦情解決事業概要や本県の取組状況について説明いただいた。

受講者からは「継続的に研修会を開催してほしい」「研修会を通じて実情を知ることができた」などの感想が寄せられた。

○ 令和 8 年度市町村介護保険事務初任者研修会を開催（オンデマンド配信・4/20～5/22）

本研修会は、市町村介護保険事務担当者の主に初任者（経験年数 1、2 年目）を対象に、制度に関する理解や業務上で必要となる知識を深め、業務の円滑な推進を図ることを目的として開催したところ、49 名が受講した。

冒頭、青森県健康医療福祉部高齢福祉保険課から「青森県における介護保険の現状」と題し、制度概要や本県における現状、また統計データの活用方法等について説明があった。

続いて、本会から審査支払業務や保険者支援業務について説明した。

最後に、本年度新たに、青森県運営適正化委員会から同委員会における苦情解決事業概要や本県の取組状況について説明いただいた。

受講者からは「初めての業務なのでこういった機会は大変貴重である」「オンデマンド配信は融通が利くので大変助かる」などの感想が寄せられた。

○ 令和 8 年度全国自治体病院開設者協議会定時総会（5/19）

全国自治体病院開設者協議会の令和 8 年度定時総会がハイブリッド（オンライン＋集合）形式で開催され、冒頭の主催者挨拶で平井会長（鳥取県知事）は、コロナ禍後の患者数減少や人件費・物価の高騰、中東情勢を起因とする医療物資の供給不足等により病院経営が非常に厳しい状況であることに触れ「地域医療の維持には制度改革が不可欠である」と強調した。

また、自治体病院の実情を考慮した政策的支援を講じていただけるよう政府・国会議員、関係省庁への要望活動を重点的に行う必要があるとの考えを示し、関係者の協力を強く求めた。

来賓祝辞後、芳岡常任理事（山口県光市長）と望月全国自治体病院協議会長から自治体病院の現状が報告され、その後、上程された任期満了に伴う役員改選を含む議案は全て原案どおり可決承認された。

定時総会終了後、山本青森県自治体病院開設者協議会会長（むつ市長）のほか沼澤三戸町長、舛甚国保連合会常務理事らが本県選出国会議員を訪ね、自治体診療施設の窮状を訴え支援を求めるとともに、様々な事態に対応可能な余力を有する合理的な医療・介護提供体制を確保し、国民と医療関係者がともに納得できる施策を進めるよう要請した。

○ 青森県保健協力員会等連絡協議会令和 8 年度総会並びに研修会を開催（5/29）

本総会並びに研修会は、各市町村保健協力員が健康づくりリーダーとして必要な知識の習得と相互研鑽の機会とし、本県の平均寿命・健康寿命の延伸に寄与することを目的にリンクモア平安閣市民ホールで開催され、会設立20年目となる今年度は保健協力員、市町村関係者など496名が参加した。

総会では、主催者挨拶で佐藤会長（大間町保健協力会会長）は、日頃の活動に対する市町村等の協力に感謝の意を表するとともに「昨年度実施した『保健協力員活動の実態調査』の結果を共有し、これからの自分たちの活動を考える機会としてほしい」と述べた。

続いて、宮下青森県知事、山本青森県国保連合会理事長（田子町長）、新井山青森県在宅保健師の会会長の祝辞後、議案審議に入り、上程された議案は全て原案どおり可決承認され、総会は終了した。

総会に引き続き行われた研修会では、深浦町保健協力員会の佐藤会長から活動発表の中で「保健協力員による受診勧奨活動が町の健診受診率向上に寄与していると思う。若い人に保健協力員になってほしいが、仕事をしている等で成り手が見つからない」と課題や苦労も語られた。

次に、当協議会の事務局である青森県国保連合会から、昨年度実施した『保健協力員活動の実態調査』の結果について「保健協力員は地域の健康づくりの担い手として重要な役割を果たしている。成り手を増やすには住民に活動を知ってもらうなど認知度の向上が重要である」と報告した。

座長を務めた国立大学法人弘前大学の中路名誉教授は「保健協力員の成り手が少ないという課題は多くの市町村が抱えている。受診勧奨をはじめ、住民と直接顔を合わせて話をすることは貴重な機会であるため、保健協力員の方々には住民

と顔の見える関係を大切にし、より一層今後の活動を頑張っていたきたい」と激励した。

最後に、国立大学法人弘前大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科講師の高畑淳子先生から「睡眠とさまざまな健康とのつながり」と題した記念講演の中で、主に子どもや大人の睡眠時無呼吸症候群の症状や検査をはじめ、様々な睡眠障害について説明があった。

また「睡眠にはノンレム睡眠とレム睡眠があり、脳や身体を休息させたり、記憶の定着に重要であるノンレム睡眠は、加齢とともに短くなりやすいことから多くの方が睡眠の悩みを抱える場合が多い。気になる症状がある方は早めに専門医を受診してほしい」と強調した。

参加者からは「睡眠時無呼吸症候群について非常に分かりやすく勉強になった」「普段聞く機会がない貴重な話を聞くことができ良かった」などの感想が寄せられた。